

KEY
PERSON

「技術の勉強も現場での作業も際限がない。
だからこそ難しくもあり、楽しくもあるんです」



仁・義・礼・智・忠・**信**・孝・悌

『Dogsalon OLLIE MAGIC』の藤原オーナーは技術の鍛錬に余念がない。休みの日であっても、ついつい情報収集などに費やしてしまうそうだ。オーナー曰く、「トリマーの仕事は美容師と同じで、技術の勉強にも現場の作業にも際限がない」のだとか。故に、時間を忘れてしまうくらい没頭することもあるそうだが、それはオーナーにとって楽しみの時間。常にアンテナを張って情報を収集し、技術の研鑽に励み、お客様には最高のサービスを提供する——決して容易なことではないが、それを続けられているのは、純粹にトリマーの仕事を楽しんでいるからなのだろう。そしてその思いが、最高のサービスを実現しているのだ。

常に情報を収集し、技術を磨き、 お客様から選ばれるサロンを目指す

Dogsalon OLLIE MAGIC

岩手県北上市本通り4丁目17-6



■オープンから今年で9年目を迎えたという『Dogsalon OLLIE MAGIC』。犬のトリミングをメインに、ドッグフードやおやつ、グッズの販売なども行っている。本日はタレントの新山千春さんが同店を訪問。トリマー・愛犬飼育管理士でもある藤原直英オーナーと奥様の沙緒理さんにお話を伺った。

サラリーマンからトリマーへ 独立後は夫婦二人三脚で歩む

新山 はじめに、藤原オーナーの歩みからお聞かせ下さい。

藤原(直) 地元・岩手県出身で、中学時代は野球、高校ではサッカー部に所属し、ずっと部活に没頭して過ごしました。当時は犬を飼っていましたが、犬に関わる仕事に就きたいという思いはありませ

んでしたね。それにトリマーという職業があることも知らなかったんですよ。新山 では、どういった経緯を経て今のお仕事をされるように？

藤原(直) 高校を卒業してからビジネス系の専門学校で学び、一般企業のサラリーマンになったんです。日々の仕事に打ち込んでいたところ、24歳の時に転職機が訪れました。知人がゴールデンレトリバーを飼っていて、何度もふれあって

いるうちにどんどんと愛着が湧いてきましたね。盲導犬などのしつけの仕事に携わってみたいと思うようになったんです。盲導犬のことを調べる中で、はじめてトリマーという仕事があることを知って興味を持ち、トリマーの学校に通うことに。そこから勉強をはじめ、現場経験も積んで、9年前に独立しました。

新山 トリマーは非常に専門なお仕事でしょう。実際に勉強をはじめてみていかがでしたか。

藤原(直) 楽しかったですし、自分に合っていると思いましたね。私は子どものころからプラモデルをつくったり、細かいことをするのが得意だったんです。最初は現在の場所とは違うところで1人ではじめました。立ち上げ当時はお客様が少なかったですね。ただ、その分時間に余裕があったのでじっくりと技術に磨きをかけることができました。最初から忙しかったら、上手くいってなかったかも知れません。

新山 ちなみに、奥様もこの業界でお仕事をされていたのでしょうか。

藤原(沙) いいえ。私は全く違う仕事をしていました。私は主人のお姉さんと知り合いだったんですよ。趣味のマラソンを通じてお付き合いしていて、ある時会わせたい人がいると言って、弟である主人を私に紹介して下さいました。それがご縁でお付き合いがはじまり、結婚しました。お店は以前別の場所にあったので、この場所に移転するというタイミングで、勤めを辞めて手伝うようになりました。



ゲスト 新山千春 (タレント)

藤原オーナーご夫妻はとても仲が良く、お互いに支え合ってお仕事をされている様子が窺えました。そうしたお2人の和やかな雰囲気が、飼い主さんに伝わり、またワンちゃんにも伝わっているのでしょうか。これから二人三脚で頑張ってください！

共に仕事をする中で、 苦勞も喜びも分け合える

■藤原オーナーと奥様の沙緒理さんは、仕事でもプライベートでも常に一緒。夫婦で仕事をする人からは、「24時間共に過ごしていると、息が詰まりそうだ」という声も耳にするが、沙緒理さんはそうは感じていないようだ。「もしも別々に仕事をしていたら、主人の良いところに気付かなかったと思いますし、すれ違いの生活だったでしょう。一緒に仕事をしていれば大変なこともあります、喜びも苦勞も共有することができる。それが一番良いところだと思いますね」。また、「問題があっても、2人なら乗り越えていけます」とも語った。そんな沙緒理さんの仕事は、飼い主の言葉に耳を傾け、オーナーに伝えることだ。「細かいところまできれいにカットしていただいて、他のサロンとは全然違う」とお褒めの言葉をいただけることもあるんですよ」と笑顔で語る沙緒理さん。時に厳しい意見をもらうこともあるだろうが、それもまた貴重な意見だ。沙緒理さんという橋渡し役がいるからこそ、オーナーはお客様のニーズに応じたサービスを提供できるのだろう。そうして夫婦で力を合わせてお店を守ってきたことも長く続けられている理由の一つなのかもしれない。

常に上を見て技術を磨き 最高のサービスを提供する

新山 生き物が相手ですし、人間のようにじっと座ってくれるわけでもないのが大変でしょう。

藤原(直) はい。じっとはしてくれませんが、色々な性格の子がいます。そこを上手くなだめながらカットしていくという感じですね。トリマーになったばかりのころはそこで随分と苦勞しましたが、慣れてくれば動いていてもカットできるようになるんですよ。

新山 奥様からご覧になって、オーナーのお仕事ぶりはいかがですか。

藤原(沙) はじめてカットする様子を見た時は衝撃でしたね(笑)。人間のカットとは全く違っていて圧倒されました。主人は黙々と仕事をするというスタイルで、あまり話すことはありません。いつもストイックな姿勢で仕事に臨んでいて、トリマーに必要なものは備わっていると思います。

新山 カットにも流行り廃りがあるでしょうし、技術もどんどんと新しいものが出るのでしょうか。

藤原(直) そうですね。ですから常に勉強し、アンテナを張って新しい情報を手に入れないと取り残されてしまいます。そういう意味では人間を相手にする美容師と同じですね。ですから、ついつい休日でも情報収集してしまうことがあるんです(笑)。それはもう習慣みたいなものですね。

新山 それだけ仕事がお好きなのでしょうね。

藤原(直) 好きだからこそその悩みもあります。ここまでやったら終わりというものがないので、ついつい時間を忘れて没頭してしまうんです。仕事である以上、ある程度の時間を決めてやらないといけない。技術を追求すればキリがありませんから、没頭し過ぎないことも大切です。新山 ここまで長く続けてくることができた要因は、どこにあると思われますか。藤原(直) 常に上を見て、自分なりに努力を続けてきたからでしょうか。他のお店でやっていることができるのは当然で、それ以上のサービスを提供できなければ次は来てもらえない。他の店に負けないよう、ずっと進化し続けるように心がけています。

新山 とてもご立派だと思います。では最後に、今後の展望をお聞かせ下さい。

藤原(直) 目の前にあるものを大事に、地に足をつけて着実に進んでいければと思っています。大きな夢を語ったところで、今がないと未来もありませんからね。今後も一歩一歩堅実に歩みながら、いずれは二店舗目を立ち上げたいですね。

藤原(沙) お客様とお話をする中で、ドッグランがあればとか、カフェがあればというお声もいただいているので、将来的にはそういったご要望もかたちにしていきたいと思っています。

(2017年8月取材)



オーナー 藤原直英



奥様 藤原沙緒理

